

The 18th NTCIR Conference (NTCIR-18)

第18回 NTCIRカンファレンス

The 11th International Workshop on Evaluating Information Access (E VIA 2025)

第11回 情報アクセスの評価に関する国際ワークショップ

2025年6月10日(火) - 13日(金)

一橋講堂 (東京・千代田区) Hitotsubashi Hall, Tokyo, Japan

主催: 国立情報学研究所 National Institute of Informatics (NII), NTCIR-18 実行委員会

Webサイト: <https://research.nii.ac.jp/ntcir/ntcir-18/conference.html>

(使用言語: 英語)

NTCIR (エンティサイル、NII Testbeds and Community for Information access Research) は、情報検索、質問応答、要約、テキストマイニング、機械翻訳など、膨大な情報の中から所望の情報にアクセスし、情報の理解や活用を支援する技術の大規模な評価基盤を、国内外の多数の研究者が共有しつつその共通基盤の上でそれぞれの研究を進め、検証、比較評価し、相互に学びあうフォーラムを形成するプロジェクトです。1998年から開始し、より豊かな情報アクセス技術の実現と未来価値創成を標榜し、1年半を1サイクルとして、毎回、いくつかのタスク (= 研究部門) を選択して活動を進めてきました。カンファレンスでは、基調講演、招待講演、パネルディスカッションと、タスク参加チームの研究成果や比較評価によって得られた知見を発表します。E VIA 2025は、情報アクセス技術の評価手法に関する研究発表の場です。NTCIRのサテライトワークショップとして広く一般から論文を募集しています。生成AI、LLM、公平性など情報アクセスが直面しているさまざまな課題に関する研究論文を投稿ください (2025/5/2 締切)

NTCIR-18 研究部門 (タスク)

第18回 NTCIRでは 10タスクを選定しました。23カ国の113団体が1つ以上のタスクに参加表明し実験を進めています。

複数の情報源に対する情報検索タスク

Web: FairWeb-2 (公平性を考慮した検索と対話システム)

文書: SUSHI (アーカイブ資料の検索),

U4 (有価証券報告書中の表の検索と質問応答)

マルチモーダル: Lifelog-6 (ライフログ画像データの検索),

Transfer-2 (言語横断・マルチモーダル検索)

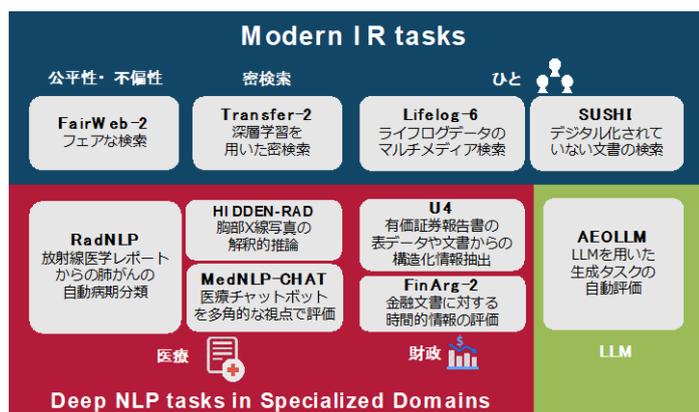
オープン・専門ドメインにおける深い言語理解タスク

オープンドメイン: AEOLLM (LLMを用いた生成タスクの自動評価)

医療ドメイン: HIDDEN-RAD (放射線読影レポートから隠れた因果関係を発見),

MedNLP-CHAT (医療質問に対するチャットボットの回答評価), RadNLP (放射線読影レポートからの肺がんのステージ予測)

金融ドメイン: FinArg-2 (金融に関する主張の時間情報予測)



第18回 NTCIRカンファレンス・E VIA 2025

第18回 NTCIRカンファレンス、および、同時開催のワークショップであるE VIA 2025は、どなたでもご参加いただけるオープンなイベントです。

2025年6月10日: 第11回 情報アクセスの評価に関する国際ワークショップ (E VIA 2025)

2025年6月11-13日: 第18回 NTCIRカンファレンス (NTCIR-18)

基調講演1 (6/11): (TBA)

Maarten de Rijke (University of Amsterdam)

基調講演2 (6/13): *Things We Know That Aren't (Always) True*

Douglas W. Oard (University of Maryland)

パネル討論 (6/11): LLM-based Evaluation (予定)

Moderator - Mark Sanderson (RMIT University)

招待講演 (6/13): NTCIR関連イベントの最新情報: TREC (Ian Soboroff, NIST) 他



第17回 NTCIRカンファレンスの様子

参加登録 →


<https://research.nii.ac.jp/ntcir/ntcir-18/conference.html>
お問い合わせ (NTCIR 事務局): ntc-secretariat@nii.ac.jp